

夢庭心 通信

Yume Niwa Kokoro
Communication

Vol. 13

春号

平成29年5月発行

私たちは、夢のような庭を心をこめてつくり、
造園業を通じ、社会に貢献する事を誓います。



閑静な住宅街に新築された、東京都・Y様邸の外構工事です。
意外と気になるのが、玄関を開けたときに家の中が丸見えになってしまうこと。
塀を立て、常緑ヤマボウシを植えて、屋内への視線を遮りました。

時代を紡ぐ庭

昨年お庭の改修をさせていただいた、山武市・I様邸をご紹介します。



I様のお宅は歴史が古く、山の麓に構えたご自宅は、江戸時代に建てられた茅葺き屋根の立派な建物。その時代にはお庭がすでに存在していたそうです。歴史と施主様の「庭を復活させたい」との想いを知り、私共も心を込めて仕事をさせていただこうと、より一層気を引き締めました。

お庭は山を借景(しゃっけい)※にした斜面に造られており、2つの滝と滾々と流れ出る清水を利用した池があります。昔は池に鯉などを飼われていたそうです。

※借景…山などの景色を、その庭の一部であるかのように利用してあること



一 工事前の滝付近の写真です。長年の降雨により滝へ土砂が流れ、それに伴い庭木も覆いかぶさり、そこに滝や池があるのかわからない状態でした。

今回の改修工事は、2つの滝の修復と、その周囲と池の土留め石組や法面中腹に、土留めの「しがら」を施工します。



二 はじめに石組に支障のある庭木を伐採した後、流れ込んだ土砂を取り除きます。滝の全容が明らかになったところで、崩れた石組の解体をすると、清水の流れを確認します。

先人は、岩盤層の上から湧き出る清水を滝の下部に流れるよう造っており、それに習い、私共も岩盤と石組の間に砂利を詰めながら作業を進めました。

石は元の滝に使われていたものと同じ黒ぼく石(溶岩石)と山石を使用し、高低さがあるので荒々しい滝「雄滝(おたき)」として石組みしました。



三 もう一方の滝も清水を滝へ流れるように、高さの低いこちらは「雌滝(めたき)」として川石をメインに石組。流れにも川石の「五郎太(ごろた)」を敷き詰めました。

池の護岸にも川石を使用し、元の橋石には橋添石(はしぞえいし)(橋挟石(はしばさみいし))を据え付けます。ただ橋石を置いただけだと木口が土と馴染まず不安定に感じます。橋添石を据えると、安定感が良く、その橋石は庭の中で見違えるように存在感が出るからです。



四 傾斜のきつい庭の中腹の土留めには、人工竹を使ったしがらを設置し、土の流出を防止します。

このしがらの内側には暗渠(あんきょ)排水を施しました。そこに排水された水は、滝の上流から流れるよう配管してあります。



五 完成



敷地の山からシダやセキショウ、シャガなどの下草を掘り上げ、石組の間に設けてあったスペースに植栽。緑が入ると、石組の雰囲気やわらかくなりますね。
法面には芝を貼り、土の流出防止をしました。池も蓄積した泥を取り除き、深さも確保できたので、また鯉なども飼える環境に蘇りました。

湧き出る清水と斜面のため、降雨後などは特に足場が悪く各工事で苦勞しましたが、無事完了いたしました。
作庭で心がけたのは、ご自宅を含めた景色との調和を乱さないという事。そしてなにより、I様の想いとこのお庭を造り守ってきたI様のご先祖様や作庭した先人の想いを受け、この作庭に携われる責任と喜びを胸に心を込めた仕事すること。今回の仕事で、人として成長できた気がします。I様には、工事中多面でご協力いただき、ありがとうございました。（担当：鎌形 拓朗）

萩窪の庭

表紙でご紹介しました、東京都・Y様邸のお庭です。



デッキ・庭

リビング前のデッキ部分は樹脂製です。ブロック塀沿いに、近年人気の高いシルバープリペットの生垣をつくり、庭にはオリーブを植栽しました。
花や下草を植えたりなど、お客様がご自身でガーデニングを楽しめるよう、新しく赤土を入れ、腐葉土と牛糞を混ぜておきました。

建物の裏や脇などの犬走り部分は、コンクリート打設や砂利敷等で仕上げる例がよく見られますが、真っ白なコンクリートでは少し味気なく、砂利敷きだと落ち葉清掃が大変です。
そこで、透水性のコンクリート平板を使うことによって、見た目の良さと実用性を兼ね備えた仕上げにしました。（担当：廣瀬 道法）



犬走り



スタッフ紹介

山本 和央 Kazuhisa Yamamoto

平成26年入社、社員として2年半となる山本和央をご紹介します。物静かで朴訥とした雰囲気ながら、ちょっと天然なところがチャームポイント。細やかな気遣いで皆からの信頼もあついで、真摯で生真面目な青年です。休日は寝て過ごしていると本人は語りますが、実はたいへん多才な人物です。
音楽はヒップホップを愛する山本。農業研修でアメリカに滞在した経験を持ち、プラモデルからPCの組み立てまでモノづくりはもちろん、エレクトーンを演奏したり、子供の

頃はレスリングで大会にも出場。そんな豊富な経験に基づいた独自の視点を、仕事に生かしていきたい、と話してくれました。
他の人では見落としてしまうような、細かい事に気付けるよう、心がけて仕事をしているとのこと。目指す職人像は、すばり「社長のような人」。ちなみに特技は、「すぐに人と仲良くなれること」だそうです。現場でお目にかかった際は、ぜひ山本にお声がけください。仲良くなったら、面白い話を色々聞かせてくれるかも!?

『私の恩人』

高校一年の春、柔道部に入った初日の稽古で、部長に「これからいいところに連れて行ってやる」と言われた。胴着のまま表に出て、「イチ、ニ、イチ、ニ」と声を出し、佐原の街並みを通り抜ける。なんとなく通行人に見られているような気がして、実は非常に恥ずかしかったように記憶している。

行き先は、佐原新宿にある諏訪神社。「あの急な階段を上がるのか」と思いきや、わざわざ遠回りして、テニスコート方面に。先輩たちの声が大きくなり、走るペースがゆるくなる。コート内には女子高のテニス部。遠回りの理由は解ったような気がした。

目的地の諏訪神社へ。その先まで一気に駆け上がるや、「展望台に上がれ!」の号令のもと早足になった。上がった瞬間、私は感動した。こんなにきれいな景色、こんなに美しい色を、私はそのときまで見たことがなかった。「これが、桜なのか」。私が庭師となった原点はここにある。

高校二年になり、進路に迷っていた頃、水上勉著「櫻守」の中で、主人公「弥吉」は言った。「日本にいちばん必要な人間は、仕事のできる人間や」「理屈こきになったかて、なあんもこの世の為にはならん。理屈は混乱を生むばかりや。本当の手仕事をする人間になれ」

この念(おも)いに打たれ、そうして今に至る。

庭師という仕事には生涯、携わっていくことと思う。何故ならば、桜を見て感動し、『櫻守』を読んで、感激したから。そして、この仕事が大好きで、生涯通してやるのが夢であり、生きがいであるから。

親方 廣瀬 辰臣



第9回 妙光山観福寺

〒287-0033 千葉県香取市牧野 1752



いつも「夢庭心通信」をご愛読いただき、まことにありがとうございます。

今回は、「スタッフのおすすめスポット」としてもご紹介いたしました。妙光山観福寺様の修景工事を中心にお届けいたします。新緑の美しい季節となり、咲き誇る大輪の牡丹の花の鑑賞に最適な時期を迎えます。お近くにお寄りの際はぜひ、観福寺様をおた

今回は、北総の名刹として有名な「妙光山観福寺」をご紹介します。真言宗豊山派の寺院で、弘法大師が自ら彫刻した三昧の霊像が伝わっていることから、日本厄除け三大師(関東厄除け三大師)のひとつに数えられるようになったと言われています。

正式名称は、「妙光山(みょうこうざん) 蓮華院(れんげいん) 観福寺(かんぷくじ)」。

このたび、修景工事を廣瀬造園にご依頼いただきました。美しい景観をいっそう引き立てることができるよう、スタッフ一同心をこめて作業いたしました。



ずねください。

また新年度より、フレッシュな新入社員を迎えることとなりました。次号でご紹介させていただく予定ですが、先に皆様にお目にかかっているかもしれません。新しいスタッフともども、これからも廣瀬造園、そして「夢庭心通信」をよろしく願いたします。

(有)廣瀬造園では、皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。ご送付を望まれない方は下記連絡先までご一報ください。

有限会社 廣瀬造園

〒287-0061 千葉県香取市谷中42-1
TEL.0478-54-6488 FAX.0478-54-3348
E-mail info@hirose-zouen.com

廣瀬造園 検索



◀ 廣瀬造園ウェブサイト
www.hirose-zouen.com/

Facebook ▶

www.facebook.com/hirosezouen/



◀ G&Dラブラドル専門犬舎
www.labrador-senmon.com/